様式３

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

評価実施日：2023 年 7 月

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数					非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	常勤教員	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
理学療法学科	6 人	6 人	6 人	6 人	人	22 人	12.5 人	
計	6 人	6 人	6 人	6 人	人	22 人		

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	９割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	８割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	相当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	心理学	15	新開 佳子	兼任
		生命倫理学	15	野見山 待子	兼任
		教育学	15	髙橋 眞弓	兼任
		人間関係論	15	野見山 待子	兼任
		臨床医学入門	15	竹本 美咲	専任
		基礎医療統計	15	野口 敦	専任
		基礎理科	15	河波 恭弘	専任
		基礎講座	15	竹本 美咲	専任
		英語	15	宮永 重良	兼任
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	15	小林 繁	兼任
		解剖学Ⅱ	15	中富 満城	兼任
		解剖学実習	23	片岡 真司　他	兼任
		生理学Ⅰ	15	稲永 清敏	兼任
		生理学Ⅱ	15	稲永 清敏	兼任
		生理学実習	23	稲永 清敏	兼任
		動作分析学Ⅰ	23	矢原 友成	専任
		運動学Ⅰ	15	大島 秀明	専任

		運動学Ⅱ	15	大島 秀明	専任
		体表解剖学Ⅰ	15	矢原 友成	専任
		体表解剖学Ⅱ	30	矢原 友成	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学	15	新開 佳子	兼任
		病理学概論	15	引地 尚子	兼任
		機能障害学	15	野口 敦	兼任
		整形外科学	15	村上 忠誌	兼任
		内科学	15	石川 崇彦	兼任
		小児科学	15	浦野 元　他	兼任
		神経内科学	15	椎 裕章	兼任
		脳神経学	8	恩田 純　他	兼任
		精神医学Ⅰ	15	副田 秀二	兼任
		健康科学	15	竹本 美咲	専任
	保健福祉医療とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	辻 和明	専任
		リハビリテーション演習	15	辻 和明	専任
		リハビリテーション工学	8	和田 親宗	兼任
専門分野	基礎理学療法	理学療法概論	23	野口 敦	専任
		理学療法研究入門	23	野口 敦	専任
		理学療法卒業演習	45	矢原 友成　他	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	河波 恭弘	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	23	中野 浩志	専任
		理学療法評価学Ⅱ	30	中野 浩志	専任
		動作分析学Ⅱ	15	河波 恭弘	専任

		動作分析学Ⅲ	30	河波 恭弘	専任
	理学療法治療学	運動療法Ⅰ	30	大島 秀明	専任
		運動療法Ⅱ	30	大島 秀明　他	専任
		物理療法	30	野口 敦	専任
		義肢装具学	30	矢原 友成　他	専任
		整形外科学理学療法Ⅰ	30	中野 浩志	専任
		整形外科学理学療法Ⅱ	30	矢原 友成　他	専任
		中枢神経障害理学療法Ⅰ	30	竹本 美咲	専任
		中枢神経障害理学療法Ⅱ	30	竹本 美咲	専任
		神経・筋障害理学療法	30	竹本 美咲	専任
		発達障害理学療法	15	近藤 直樹　他	兼任
		内部疾患理学療法Ⅰ	15	河波 恭弘	専任
		内部疾患理学療法Ⅱ	30	河波 恭弘	専任
		高齢者理学療法学	15	野口 敦	専任
		スポーツ理学療法	15	中野 浩志	専任
	地域理学療法学	日常生活活動Ⅰ	15	大島 秀明	専任
		日常生活活動Ⅱ	15	大島 秀明	専任
		地域理学療法学	15	稲冨 武志	兼任
	臨床実習	臨床実習	475	矢原 友成　他	専任
		地域理学療法実習	25	中野 浩志　他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
通所リハビリテーション 訪問リハの見学	2 年後期	地域理学療法実習	2 年後期
理学療法評価の見学 理学療法評価の実践 理学療法計画立案の実践 理学療法の見学 理学療法の実践	3 年前期	臨床実習 （臨床実習Ⅰ、Ⅱ－１、Ⅱ－２）	3 年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
〇	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	教育課程編成委員会
委員名（委員長）	辻 和明
組織の開催頻度	年に二度
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の実施と分析
	・ 教員間による授業参観と評価の企画
	・ 教育課程の体系化、教育目標の検討
自己点検・評価結果の公表	ＨＰで公表（URL：https://tohaya.ac.jp/krc/sc_info/）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に〇をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
〇	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	カリキュラム検討委員会
	委員構成等	辻 和明　他
	改善の仕組みの実際	・各学年の講義終了後のシラバス検討を実施 ・学生による授業評価の分析を踏まえての内容の検討 ・年２回（7 月と 12 月）外部委員による内容検討を実施

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

・教育課程や学修成果の測定・評価はしているものの体系的に示されるべきカリキュラムツリーの整備はやや不十分であり、アセスメントポリシーの明文化・公表と合わせカリキュラム検討委員会、教育課程編成委員会で検討を継続する。

・養成所指導ガイドラインで定められる主たる臨床実習施設が確保できていない状況である。特に臨床実習指導者のうち１人は、厚生労働省が指定した専任教員養成講習会を修了した者、又はこれと同等以上の知識及び経験を有する者であることの要件を満たせず至っていない。早急に議論の上、主たる臨床実習施設の確保の検討に入る。